

重いものは低いところへ…当たり前のことも忘れずに！

重いものは下に収納するようにしましょう。

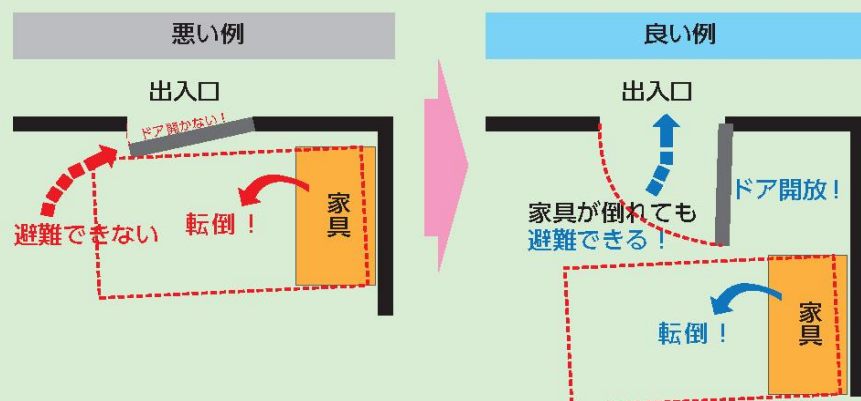
とくに、棚板の高さが移動できる家具は、こまめに棚の間隔を調整してください。

また、家具の上にはガラス製品やハサミ、アイロンのような危険物や、テレビなどの重いものを置かないようにしましょう。



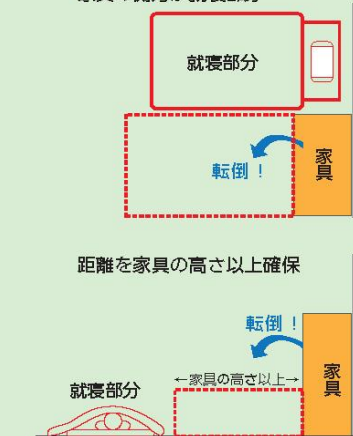
避難路の確保、安全な家具の置き方。

●避難経路の確保



●家具の配置と就寝位置

家具の側方が就寝部分



大地震のとき、恐ろしいのは、家具やガラスが凶器となることです！



家具の転倒防止をしましょう！

～あなたが守る家族の安全～

家具転倒防止の必要性

〈怖いのは家具の下敷き、逃げ遅れ！〉

地震で家具が転倒すると、その下敷きになって命を落としたり、室内に物が散乱して避難の妨げになる恐れがあります。

阪神・淡路大震災地震の負傷者のなかには、建物に特別な被害がなかったものの、家具や家電製品の転倒・散乱によって逃げ遅れたり、室内でけがを負った人たちも多く含まれています。そんな恐ろしい地震から身を守るためには、家具の固定や配置などの工夫を行い、家のなかの安全確保をしておくことが大事です。

「備えあれば憂いなし」ということわざがありますが、安全に対する備えは決して無駄ではありません。ご家庭でご使用の家具をよく点検し、安全対策を講じましょう。

中津川市では、市民の安全な暮らしを確保するために、「命を守る3点セット」の推進をしています。

命を守る3点セット

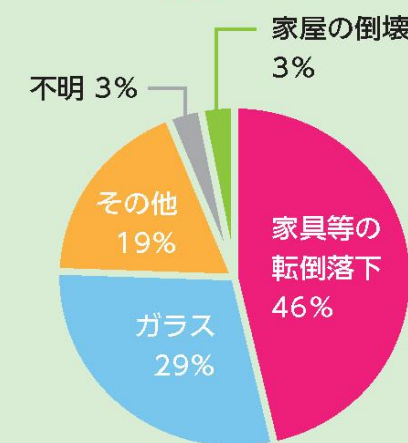
家具転倒防止の啓発・促進

住宅用火災報知器の設置促進

木造住宅耐震診断・補強

家屋内被害によるケガの原因

(調査数：130人)



日本建築学会「阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書」より

家具類の転倒等による負傷者の割合

新潟県中越沖地震	〈平成19年7月〉	40.7%
福岡県西方沖地震	〈平成17年3月〉	36.0%
新潟県中越地震	〈平成16年10月〉	41.2%
十勝沖地震	〈平成15年9月〉	36.3%
宮城県北部地震	〈平成15年7月〉	49.4%

(東京消防庁調べ)

中津川市では高齢者のみの世帯・障がい者が居る世帯に、家具転倒防止金具等を無償支給いたします。

中津川市家具転倒防止事業の対象世帯

- ①高齢者（65歳以上）のみで構成される世帯。
- ②身体障がい者手帳、療育手帳または精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている者が居る世帯。
- ③申込みの際は、所定の申請書と確約書に必要事項を記入して市へ提出する。
- ④対象家具は、タンス、食器棚等で地震発生時に転倒することにより、生命の危機や障害をおよぼすものとする。
- ⑤取付け事業は、民生委員、自主防災組織及びボランティア組織等の協力を得て行う。

家具取付け事業の内容等

- ①転倒防止金具（L字型金具、固定ベルト）を用いて、柱、壁等に固定する。
- ②転倒防止金具は1世帯につき家具5台分まで市が支給する。

お問合せ先

中津川市総務部 防災安全課
電話 0573-66-1111

内線163・165

中津川市

適切な転倒防止器具を選んで、正しく取付けましょう。
器具は、ホームセンターなどで販売されています。

各種転倒防止器具の取付け方法

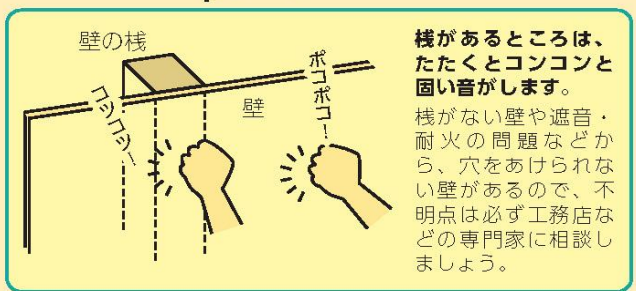
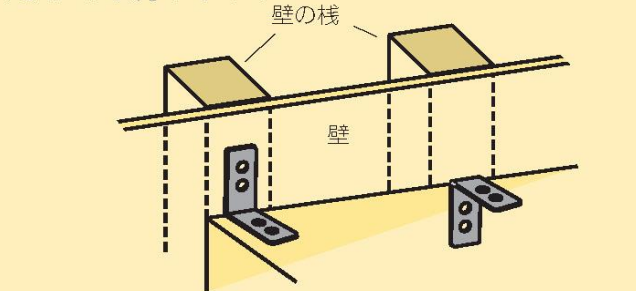
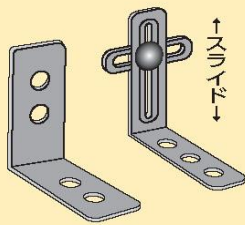
主な転倒防止器具の種類と
取付けの際の留意点をご紹介します。

家具と壁とを直接固定するタイプ

L型金具

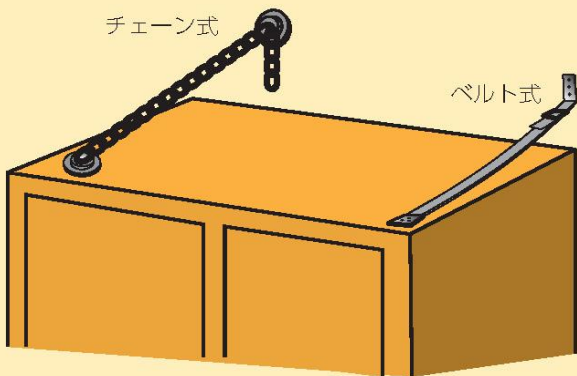
金具で家具と壁とを直接
固定するタイプ。

壁の棧（さん）と家具の芯
材が確実に入っている位
置に、長めの木ねじを使
用して取付けます。



ベルト式器具 チェーン式器具 プレート式器具

家具と壁とをそれぞれネジ止めした金具
を、ベルト、チェーン、などで結ぶタイプ。
壁や家具の取付け位置に L 字型金具と
同様の注意が必要です。
家具の側面に 30° 以下の角度でピン
と張る必要があり、たるみがあると効
果がありません。



家具と壁とを直接固定しないタイプ

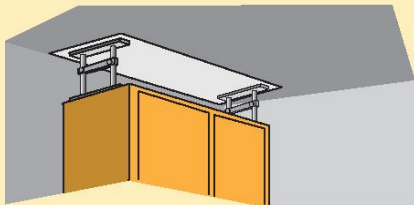
ポール式器具（つっぱり棒）

家具と天井との隙間に設置する棒状のタ
イプ。

家具の両側の側板の位置に設置します。
天井に家具を支えるだけの強度がないと
効果は少ないとされます。



天井側に厚めの板を渡し、板・家具とポ
ールをネジ止めすると効果的。



家具と天井との間が大きく空いている場
合や、奥行きのない家具には効果があ
りません。

ストッパー式器具

家具の前方下部に挟み家
具を壁側に傾斜させます。



マット式器具

粘着性のゲル状のもので
家具のそこ面と床面を粘
着させるタイプ。



家具等転倒防止器具の効果

東京消防庁の実験結果によれば、**L型金具で家具と壁とを直接ネジで固定する方法が最も効果が高いこ
とがわかりました。**

右の表は、その実験結果に基づき家具等転倒防止器具の効果のイメージを表にまとめたものです。
賃貸住宅にお住まいの場合など、家具と壁とを直接固定できない場合は、つっぱり棒とストッパー式な
ど 2 個以上の器具を組み合わせると単独で使用するよりも効果が高くなります。

なお、同じ器具を使用しても、壁や天井および床の状況によってそ
の効果は大きく変わってきます。必ずしも右表のような効果の順番
になるとは限りませんのでご注意ください。また、実験結果にはあ
りませんが、右の表のような器具のほか、家具と天井の間に衣服な
どを詰めた段ボール箱や収納ユニットを隙間なくおくだけでも一
定の効果があります。



●家具等転倒防止器具の効果に関するイメージ

使用条件	小	地震に対する器具の効果	大	取付条件
単独で使 用した場合	チェーン式 ベルト式 ストッパー式 マット式	L型金具 (スライド式) L型金具 (上向き取付) プレート式 L型金具 (下向き取付)		家具、壁面の取付け 部分や器具自体に十 分な強度が必要
		ポール式 (つっぱり棒式)		家具の天板と天井部 分に強度が必要
組み合 わせて 使用した場合		ポール式 マット式	ポール式 ストッパー式	

1. 上記は、東京消防庁が実施した実験において使用した器具の効果を相対比較したものです。
2. 実験は、阪神・淡路大震災（神戸海洋気象台観測波形）の地震波震度 6 強相当で加震し、家具に食器棚（H1800mm、D406mm、W896mm、重量 64.5kg、内容物 50kg オモリ）を使用して、床面はフローリングとしています。
壁・天井は、固定に十分耐えられる強度を確保しています。また、使用した器具等は同型の製品でも材質、形状等が異なるものがあります。
※ これらのことから、使用する家具、室内環境、器具の性能により、今回の結果とは異なる場合も想定されます。（東京消防庁：家具の挙動と転倒防止器具の検証より）